

平成20年度 第36回 岐阜県高等学校選抜バスケットボール大会
 兼 第39回 全国高等学校バスケットボール選抜優勝大会県予選会
 大会第6日:平成20年11月2日(日)
 会場:岐阜アリーナ

男子の部

<審判>

準決勝 岐阜総合 75 $\left[\begin{array}{l} 23 - 21 \\ 16 - 16 \\ 19 - 13 \\ 17 - 10 \end{array} \right]$ 60 中津川工 高橋英彦・清水潤

両チームともハーフコートマンツーマンでスタート。岐阜総合は松井の3点シュートが2本連続で決まり、リズムに乗りかけたが、中津川工も原を起点とした速攻が決まり、両チームいいスタートを切る。第1ピリオドは23-21と岐阜総合が2点をリードする。

第2ピリオド、両チームとも粘り強いディフェンスでなかなかシュートが決まらない。岐阜総合は激しいディフェンスからの速攻で突き放しにかかるが、中津川工も島津、谷本のシュートが決まり、一進一退の攻防が続く。前半を終わって39-37と、岐阜総合がわずかに2点のリード。

第3ピリオド、中津川工は田口、和田井の3点シュートで一時は逆転に成功する。しかし、岐阜総合はハーフコート1-2-2のゾーンを仕掛け、インターセプトから伊藤のシュート、田代のドライブが決まり、リズムに乗り始める。58-50と岐阜総合が8点をリードして最終ピリオドを迎える。

第4ピリオド、中津川工はオールコートゾーンプレスで必死の追い上げを見せるが、ファウルもかさんで点差を詰めることができない。岐阜総合は高さを生かしてリバウンドを制して、着実に得点を伸ばし、75-60で勝利して決勝へ駒を進めた。(林 紗規子)

準決勝 美濃加茂 78 $\left[\begin{array}{l} 12 - 20 \\ 13 - 18 \\ 15 - 9 \\ 20 - 13 \\ 18 - 4 \end{array} \right]$ 64 岐阜農林 室谷伸治・清水潤

両チームともハーフコートマンツーマンディフェンスでスタートする。互いにアウトサイドシュートが決まらず思うように得点できないが、インサイドから得点を重ねた岐阜農林が、20-12とリードして第1ピリオドを終えた。

第2ピリオド、岐阜農林 今井が連続して速攻を決めると、美濃加茂はディフェンスを2-3ゾーンに切り替える。岐阜農林は今井のインサイド、小林のレイアップで得点し、美濃加茂は宮嶋のミドルシュート、横家のバスケットカウントで得点する。美濃加茂は、さらにディフェンスを3-2ゾーンに切り替えてリズムをつかみ始めた。しかし、順調に得点を伸ばした岐阜農林が、前半を38-25と13点のリードを奪った。

後半、岐阜農林はハーフコート3-2ゾーン、美濃加茂はハーフコート2-3ゾーンに切り替える。互いに相手のディフェンスを攻略できず、ターンオーバーを繰り返す。しかし終盤、美濃加茂は安藤のドライブ、中村のミドルシュート、横家のリバウンドシュートなど4連続ゴールで点差を縮め、40-47と7点差まで追いついた。

第4ピリオド、美濃加茂の勢いは続き、小川が3点シュートを2本沈め、高橋の2本のフリースローでついに逆転。岐阜農林も譲らず川崎のゴール下、ミドルシュートで対抗。美濃加茂は打江、中村のミドルシュートなどで、残り3分には60-53と7点をリードし、勝負を決したかに見えた。しかし、岐阜農林は川崎の3点シュートなどで追いつき60-60の同点として、延長戦に突入した。

延長に入ると、美濃加茂は小川の3点シュートが効果的に決まり、相手を突き放す。その後はフリースローを決めて得点を伸ばし、78-64で接戦を制して決勝へと進んだ。岐阜農林は終盤に入って外角シュートの確率が悪くなり、追い上げることが出来なかった。(野々村浩二)

女子の部

<審判>

準決勝 岐阜女子 96 $\left[\begin{array}{l} 30 - 12 \\ 28 - 7 \\ 9 - 18 \\ 29 - 13 \end{array} \right]$ 50 岐阜総合 田中昭博・長屋 貴

岐阜女子はオールコートマンツーマン、岐阜総合はハーフコートマンツーマンでスタート。岐阜女子は 汪のインサイドを中心に攻め、次々と得点を重ねていく。岐阜総合は 前田が3本の3点シュートを決めて応戦する。第1ピリオドは、岐阜女子が30-12と大きくリードする。

第2ピリオド、岐阜女子は 上原を中心によいリズムでオフェンスを展開していく。ルーズボールやリバウンドを確実にとり、速攻などのランニングプレーで加点していく。岐阜総合もパス回しからライブやミドルシュートをねらうが、なかなか決まらず、5分間ノーゴールの状態が続く。前半は58-19と岐阜女子がさらにリードを広げて終了する。

第3ピリオド、岐阜総合はディフェンスをハーフコート1-3-1ゾーンに変えて、ディフェンスからリズムをつかみ、リバウンドを確実にものにする。オフェンスのリズムもよくなった岐阜総合は、 下里、前田、野原が3点シュートを決めて必死の追い上げを見せる。

第4ピリオド、岐阜女子はオールコートマンツーマンで激しいプレッシャーをかけ、松原、杉浦、チョン、尾崎ら控え選手が次々にシュート決めていく。結局、速さ、高さに勝る岐阜女子が相手を圧倒して96-50で勝利し、決勝へ駒を進めた。岐阜総合は、前田が7本の3点シュートを決めるなど、最後まであきらめずに攻めたが、インサイドを攻められず、点差を縮めることはできなかった。(林 義貴)

準決勝 高山西 65 $\left[\begin{array}{l} 13 - 20 \\ 19 - 16 \\ 16 - 9 \\ 17 - 11 \end{array} \right]$ 56 県岐阜商 大江裕之・古田 怜

高山西はハーフコートマンツーマン、県岐阜商はスリークォーターからのマンツーマンディフェンスでスタート。県岐阜商は序盤から激しいディフェンスでリズムをつかみ、速攻や 吉田の2本の3点シュートなどで次々と得点を重ねる。高山西は 武のポストプレーを中心に攻めようとするが、シュートが決まらない。第1ピリオドは、県岐阜商が終始リードして終わる。

第2ピリオド、高山西は苦しいシュートが続いて得点が決まらない。対する県岐阜商も 羽賀のゴール下などで突き放しにかかるが、高山西の粘り強いディフェンスに苦しみ、思うように得点が伸びない。前半は36-32と県岐阜商が4点リードして折り返す。

第3ピリオド、県岐阜商はオールコートマンツーマンでターンオーバーをねらうが、高山西は冷静なボール運びで相手のディフェンスをかいくぐる。一進一退の攻防が続くなか、高山西のセンター武が4ファウルでベンチに退く。流れは県岐阜商に傾くかと思われたが、高山西は5人全員でのパッシングゲームを展開し、井川、浅生のシュートなどで逆転に成功する。高山西が3点をリードしてこのピリオドを終えた。

第4ピリオド、高山西は 武を、県岐阜商は温存していた3年生をコートに戻してスタート。出だしは高山西がナンバープレーを成功させてリードを広げるが、その後はお互いにイーजीミスが続く。両チームとも激しいディフェンスで一步も譲らず、時間だけがどんどん経過する。残り2分、追いかける県岐阜商のアウトサイドシュートも思うように決まらない。結局、高山西が粘り強い攻守をみせて、65-56と接戦を制し、決勝へ駒を進めた。(川上亮輔)